



ナマズの知恵袋

令和3年(2021年)4月
編集・発行 滋賀県立図書館

わたしの苗字のルーツは？ご先祖さまはどんな方だった？

図書館にはさまざまな質問がよせられますが、その中でも、ご自分の苗字(姓氏)の由来や、「うちの家は昔こうだったと聞いているのだけど」という、先祖に関する質問を多くいただきます。一族の歴史にご興味を持たれた方の、お調べものの助けになる本を紹介します。

苗字・家系を調べる！全国編

『姓氏家系大辞典』1～3

太田亮著、姓氏家系大辞典刊行会、1979年(初版1938年)[R-2881-1]

全国の姓氏を五十音に配列し、その起源、分布、本支の関係などを解説しています。

『新編姓氏家系辞書』

太田亮編、秋田書店、1974年[R-2881-1]

上の続編にあたる本です。

『角川日本姓氏歴史人物大辞典』3 岩手 4 宮城 10 群馬 14 神奈川 16 富山 17 石川 19 山梨 20 長野 22 静岡 23 愛知 26 京都 35 山口 46 鹿児島 47 沖縄 竹内理三[ほか]編、角川書店、1991年～1998年[R-2881-3]

地元の研究者や資料館、博物館、図書館職員などが中心になって執筆しています。滋賀の巻は未刊行です。調査地域が刊行済の地域なら調べるのに便利です。

『角川日本地名大辞典』『角川日本地名大辞典』編纂委員会編、角川書店、1979年～1990年[R-2910-1]

『日本歴史地名大系』平凡社刊、1979年～2001年[R-2910-1]

県別の地名辞典も、名字の由来や分布を調べる時に参考になります。

『新撰姓氏録』(『神道大系』古典編6 神道大系編纂会、1981年[2-1708-6])

平安初期に成立した古代氏族の系譜集大成。当館所蔵資料のほか、インターネット上でも閲覧できます。

(国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/>) (2021年4月1日確認)

これ以外の古代の系図はほとんど散逸しています。

『尊卑分脈』(『国史大系』58～60、黒板勝美編輯、吉川弘文館、1966年[R-2882-1])

室町初期に編纂が行われた、系図研究の基本史料。藤原氏、源氏が多く記載されています。

『寛永諸家系図伝』1～16 斎木一馬校訂、続群書類従完成会、1980年[R-2882-1]

江戸幕府が初めて編纂した系図集。大名や旗本を出自により分類し、医者、同朋、茶道の諸家も加えられています。功績などの解説が豊富です。

『寛政重修諸家譜』1～29 続群書類従完成会、1964年[R-2882-1]

上の続編にあたる幕府編纂の系図集。徳川氏、御三家、御三卿は省かれています。

『群書類従 系譜部』塙保己一編纂、1979年[2-081*-5]、『続群書類従 系図部』塙保己一編纂、1979年、[2-0810-5]

江戸時代後期(文政年間)に成立した、諸家伝来の系図を広く収集したものです

『系図纂要』1～18 名著出版、1996年[R-2882-1]

江戸時代末期に編纂された皇室、公家、武家、積家の系図集大成。補遺、索引が充実しています。

図書館の資料で調べられるのは、おおむね皇族と有力武将の直系系図のみです。

中世には、古代からの氏が解体し家柄を証明する系図が重要視されるようになりましたが、系図売りなどが出現したため信憑性に注意する必要があります。近世は、大名・旗本について複数の文献が残っています。



藩主・藩士を調べる

『三百藩藩主人名事典』 3
藩主人名事典編纂委員会編、新人物往来社、
1987年 [S-2800- 87]

おおむね関ヶ原の戦いから廃藩置県までの、
各藩藩主の概略が掲載されています。

『三百藩家臣人名事典』 4
家臣人名事典編纂委員会編、新人物往来社、
1988年 [S-2800- 88]

こちらは同時代の各藩家臣の概略を掲載。藩
毎に参考文献も挙げられています。

『膳所藩名士列伝』 竹内将人編、立葵会、1979
年 [S-2811- 79]

初代藩主戸田一西をはじめ、膳所藩にまつわ
る様々な人物が紹介されています。

『侍中由緒帳』 1～16 彦根城博物館編、彦根
市教育委員会・彦根城博物館、1994～2020年
[S-2551-1]

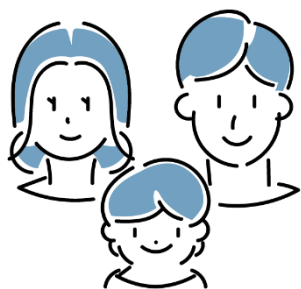
江戸時代に作成された彦根藩士の基本台帳で
ある「侍中由緒帳」の翻刻です。原本は『彦根藩
井伊家文書』として彦根城博物館に所蔵されて
います。

郡史から調べる

近江国 12 郡の郡史のうち、次のものには人物
志があり、地元で活躍した著名な人物の事績を知
ることができます。

『野洲郡史』下 1927年 [S-2120-2]
『甲賀郡志』下 1926年 [S-2130-2]
『近江蒲生郡志』巻8 1922年[S-2140-8]
『近江神崎郡志稿』下 1928年 [S-2140-2]
『近江愛智郡志』3 1929年 [S-2150-3]
『近江國坂田郡志』第4巻 1941年 [S-2160-4]
『東浅井郡志』第3巻 1927年 [S-2160-3]
『近江伊香郡志』下巻 1953年[S-2170-3]
『高島郡誌 全 増補』 1972年[S-2110-72]

(※郡史の出版年は初版年です)



戦国の近江にかかわる一族

『戦国大名系譜人名事典 西国編』 山本大編、
新人物往来社、1986年 [S-2800-2]

浅井氏、蒲生氏、京極氏などの戦国大名の系図
と解説が簡潔にまとめられています。

『織田信長家臣人名辞典』第2版 谷口克広著、
吉川弘文館、2010年 [S-2800- 10]

『浅井氏三代』 宮島敬一著、吉川弘文館、2008
年 [S-2860- 08]

『近江浅井氏の研究』 小和田哲男著、清文堂出
版、2005年 [S-2860- 05]

浅井氏の勃興から滅亡までを、史料に基づき
詳細に記述しています。

『戦国遺文 佐々木六角氏編』村井祐樹編、東京
堂出版、2016年 [S-2400- 16]

応仁元年から天正年間までの佐々木六角氏に
関する史料の翻刻集です。

『戦国大名佐々木六角氏の基礎研究』村井祐樹
著、思文閣出版、2012年 [S-2800- 12]

こちらの資料も手がかりに

調べたい人物が決まっていて、その人物が載っ
ている資料をできるだけ広く知りたい。そんなと
きには次のような「本を調べるための本」が便利
です。

『人物レファレンス事典』 古代・中世・近世編
日外アソシエーツ編刊 [R-2810-二] 1996年
(2007・2018 追補)

古代～明治維新前までに活躍した人物につい
て、計 129 種類の事典のどこに掲載されているか
がわかる事典です。

『人物レファレンス事典』郷土人物編 日外アソ
シエーツ編刊 [R-2810-二]2008年 (2018 追
補)

『人物レファレンス事典』の収録対象外だった
地方別人物事典類計 195 種を対象とする事典で
す。

滋賀県で一番多い名字をご存知ですか？

『日本名字家系大事典』森岡浩編 東京堂出版、2002年[R-
2881-E]によると、滋賀県で一番多い名字は「田中」で、以下
「山本」「中村」と続きます。この本には、平安末期以降に実在
した約 6,000 種類の名字・家系の由来が記されています。